

## 第3回 ISO 20022勉強会

# EDI/SCMの現状と近未来

2015年2月10日

Ver.1.3

株式会社データ・アプリケーション  
EDI/SCM企画推進  
エグゼクティブコンサルタント 藤野 裕司

# アジェンダ

## 1. 産業界のEDI/SCM

- (1)EDI/SCMの現状
- (2)新たな取り組み

## 2. 金融業界との連携

- (1)現状の産業界と金融業界
- (2)金流商流連携の促進（産業界から金融業界を見て）
- (3)「決済情報と商流情報の連携」実証実験（2014年8月～2015年1月）

## 3. EDI/SCMの近未来

産業界国内外EDI/SCMの進化は続く

## 4. 産業界が取り組む連携の基盤

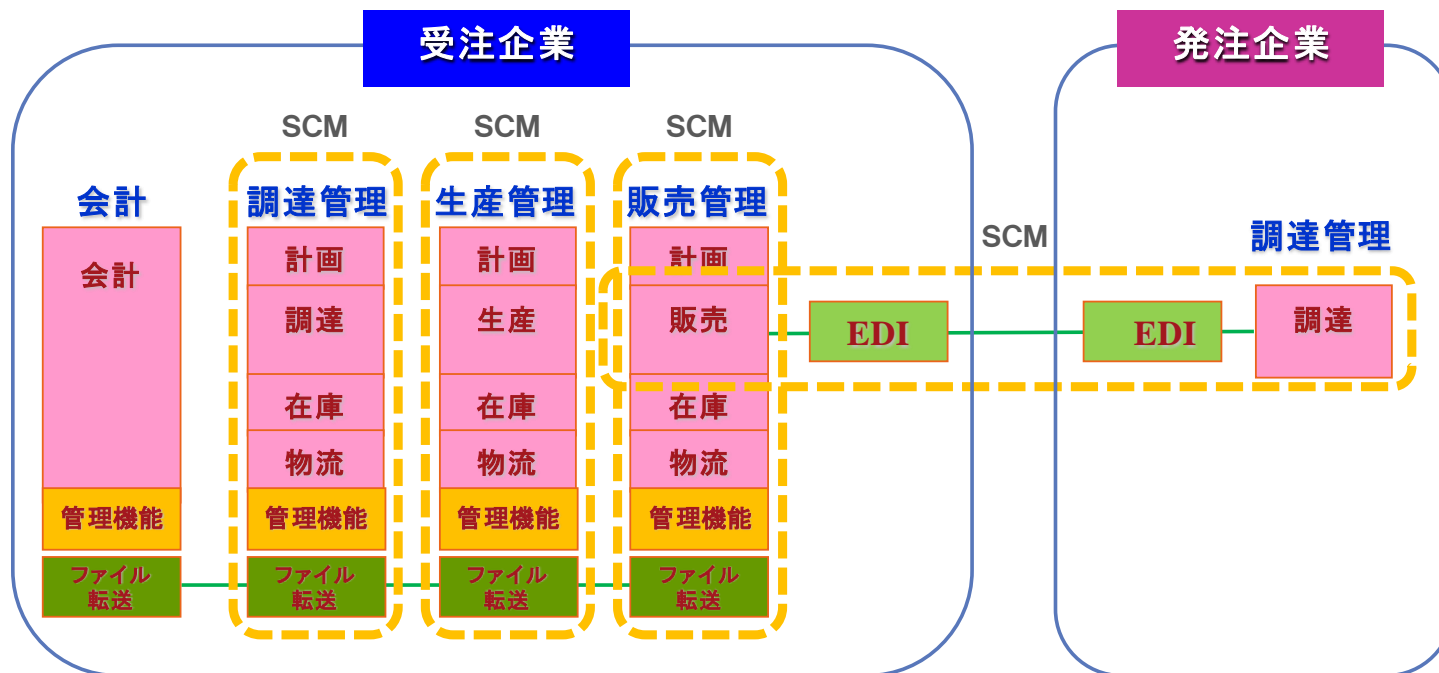
- (1)企業間・企業内はシームレス
- (2)これからのシステムはデータ連携基盤で統合

# 1. 産業界のEDI/SCM

## (1)EDI/SCMの現状

### ① SCMの現状

- 社内でSCMの共通認識がない。
- 部分最適が進み、全体最適に至らない。
- 社内の業務連携と企業間のEDIが別管理。
- 物流と金融で連携が途切れがち。



## ② グローバルサプライチェーンの実態

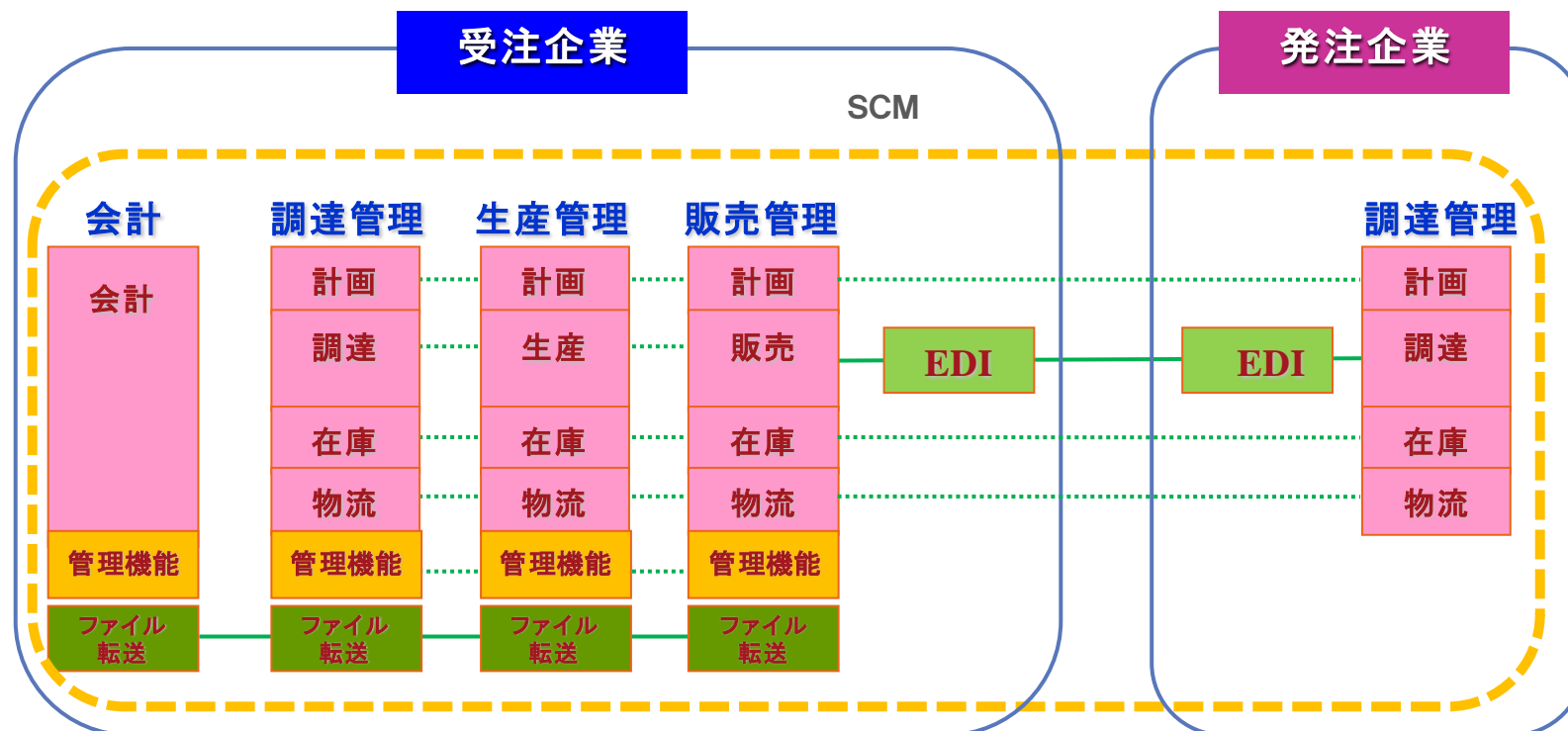
- グローバルEDIはほとんど実施されていない。  
現状は、グローバルな社内連携の位置づけ。
- 貿易は通関以外電子化が進んでいない。
- 海外の取引先との間に多くの事業者が関与しており、その事業者間で情報の分断が発生している。  
情報がENDtoENDで繋がっていない。
- 大手フォワーダはすべての情報を持っているというが、荷主の全取引や商品をカバーできるわけではない。
- 海外のシステムと国内のシステムの精度が異なり、海外のシステムが国内の精度に追従できない。
- 商慣習、法制度が異なり、国内で求める情報を海外法人が出せない。

# 1. 産業界のEDI/SCM

## (2) 新たな取り組み

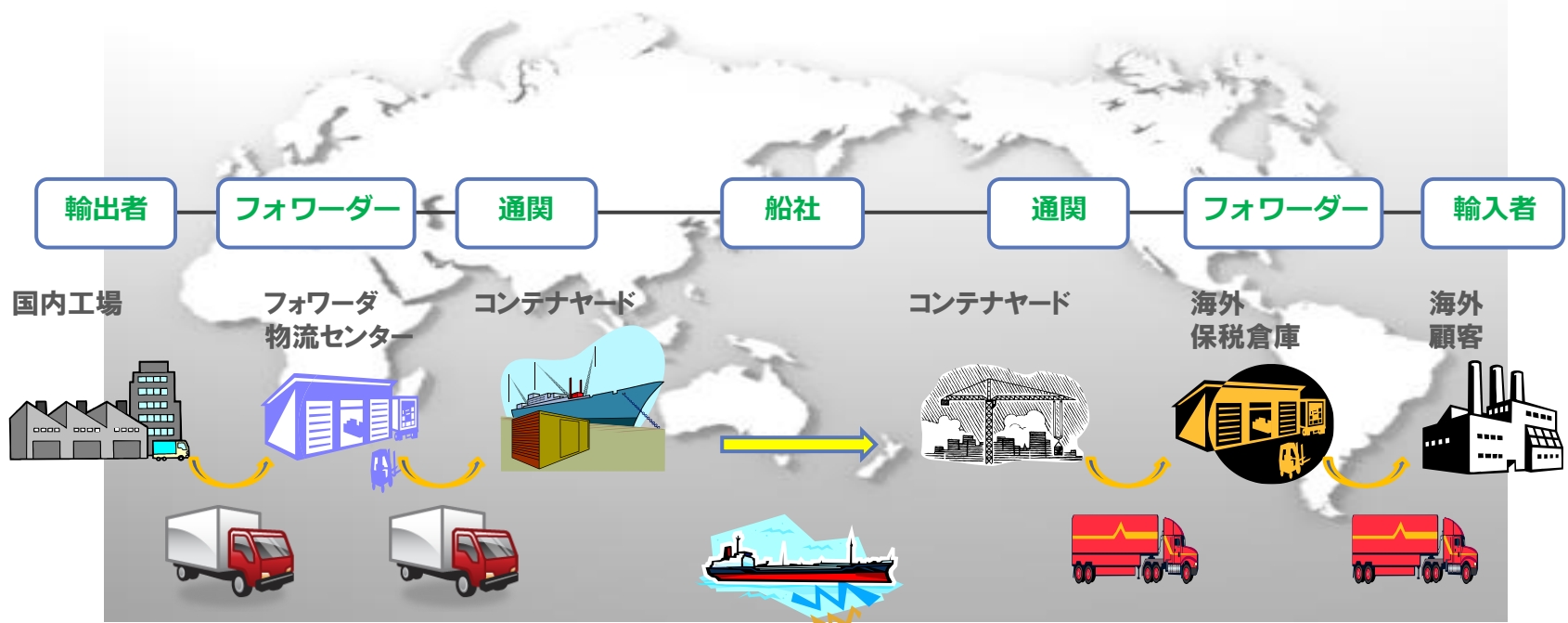
### ① SCMの全体最適化（2010年～）

- SCMの全社統括組織が必要。
- 社内と企業間の業務・組織間連携を強化。
- サプライチェーンインフラの構築。



# 1. 産業界のEDI/SCM

- ② グローバルサプライチェーンのIT化推進（2012年～）
- ・ 貿易を含めたシステム連携推進。
  - ・ 海外現地法人のIT化推進。
  - ・ グローバルデータ連携基盤の萌芽⇒クラウド（？）



## 2. 金融業界との連携（産業界から金融業界を見て）



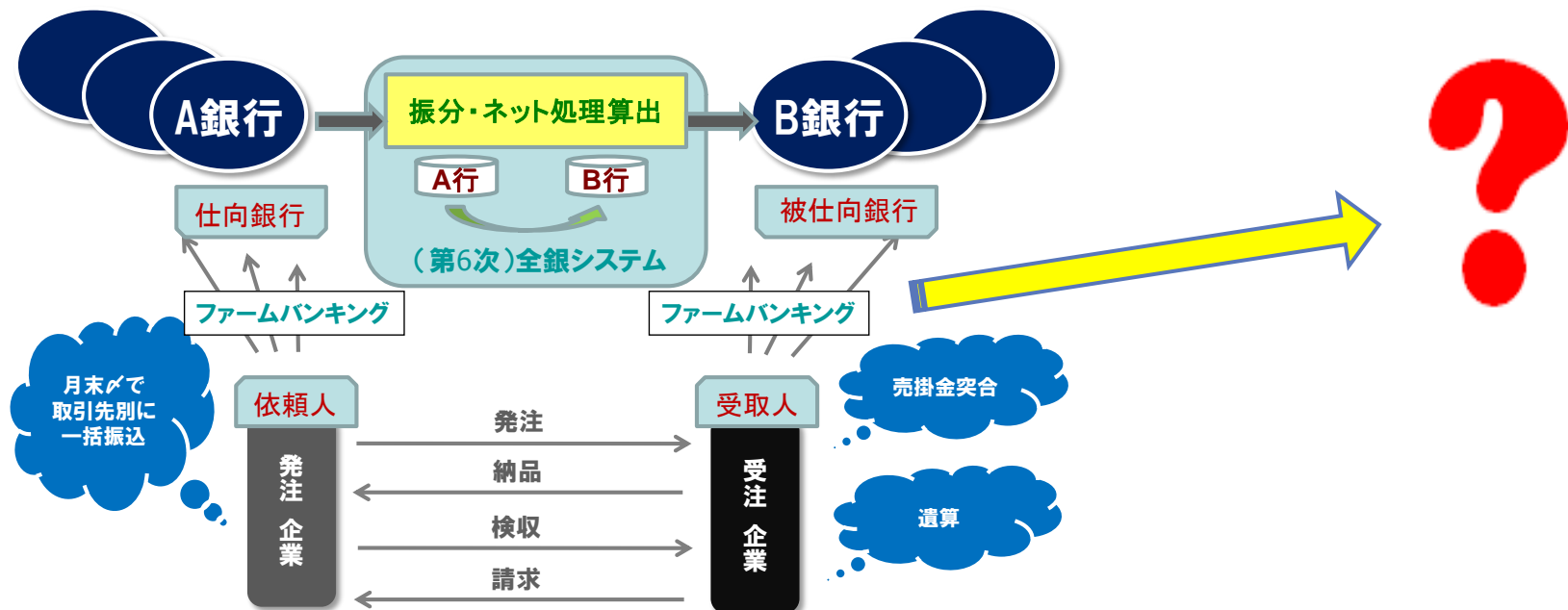
### (1) 現状の産業界と金融業界

- 現状の産業界と金融業界の連携は、ファームバンキングのみ。
  - 接点は、データ交換と画面操作による資金移動と照会。
  - 金融側から見ると資金の移動がひとつの取引だが、企業側から見ると資金移動は相手先企業との取引の塊（複数の取引）。
- 個々の取引と資金移動の紐付けができない。

## 2. 金融業界との連携（産業界から金融業界を見て）

### (2) 金流商流連携の促進（2014年～）

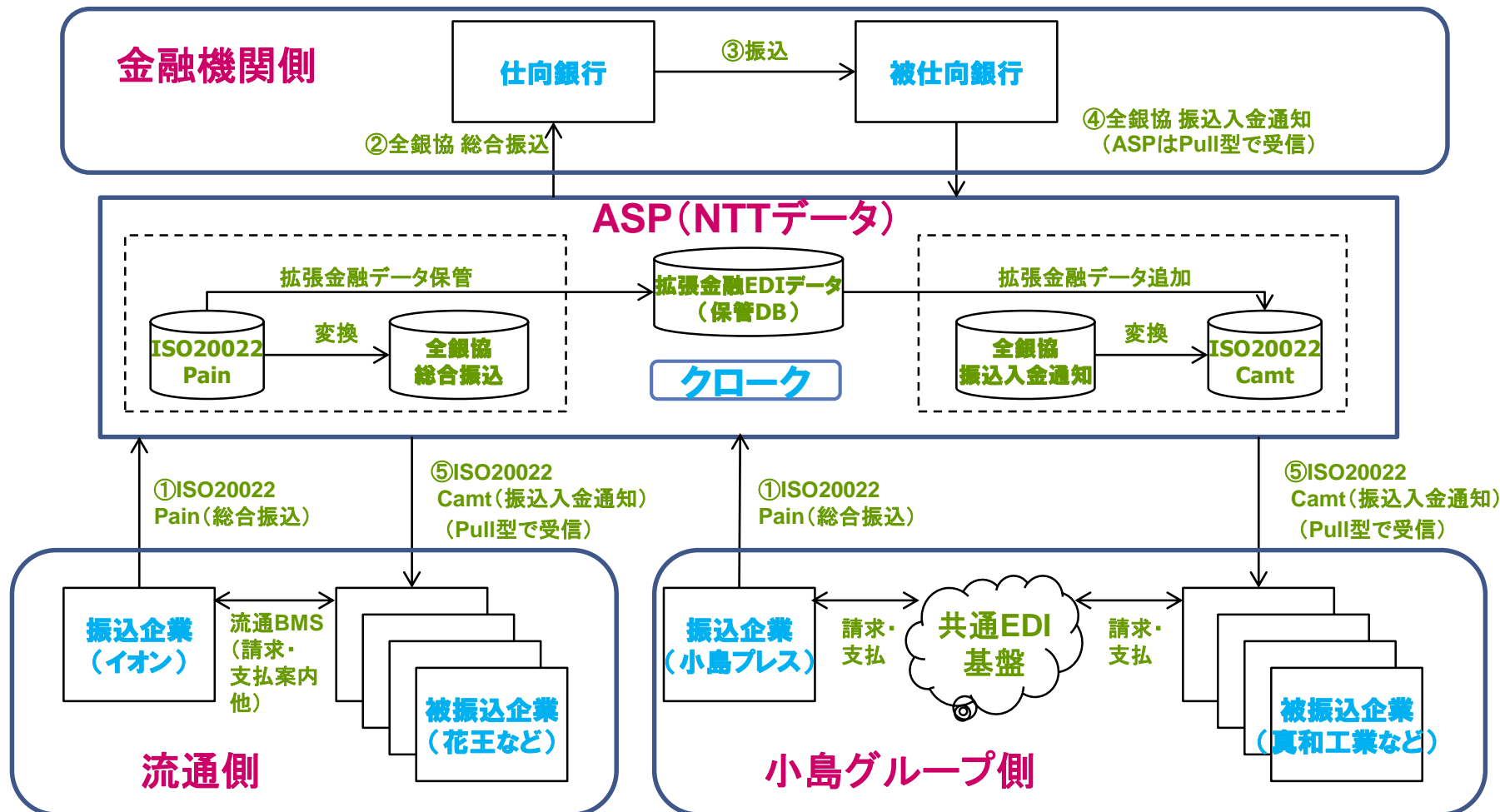
- 国の政策（成長戦略）にも掲げられた。
- 企業側は売掛金突合、違算管理に効果。
- 金融側は、将来的には融資機会の拡大も視野に。
- 大手銀行が積極的に取り組めば産業界も動く。
- 地銀・信金がその後に続けば、中小企業にとって有効。
- 実施に向けた検討は始まったばかり。





## 2. 金融業界との連携（産業界から金融業界を見て）

### (3) 「決済情報と商流情報の連携」実証実験 (2014年8月～2015年1月)



## 2. 金融業界との連携（産業界から金融業界を見て）



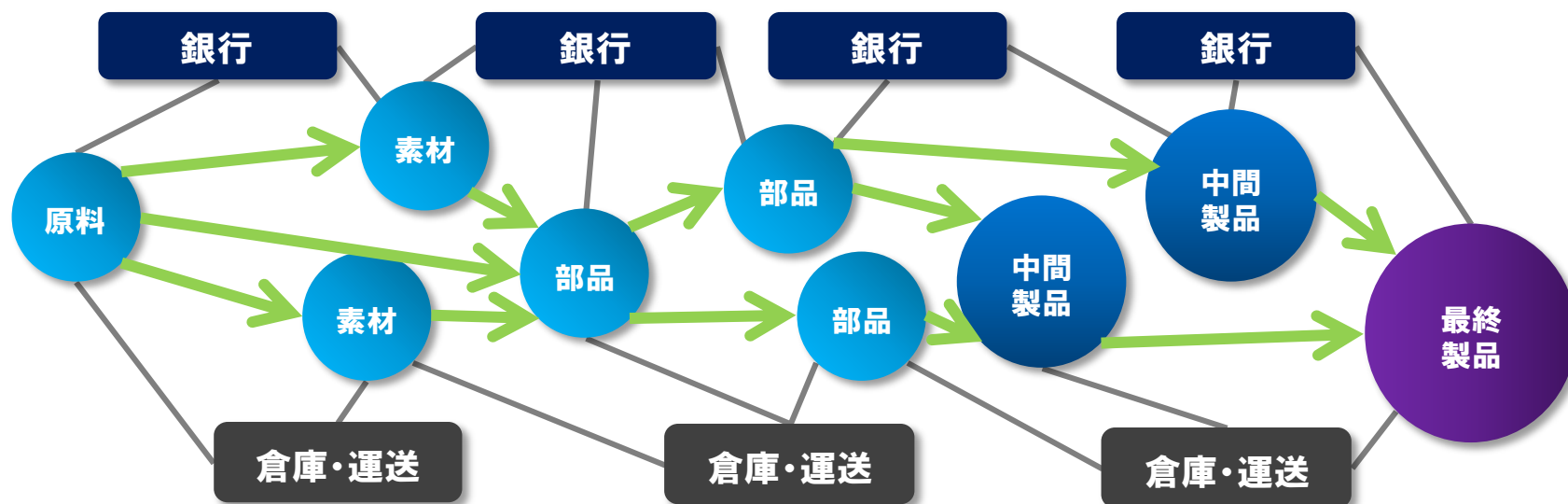
- 流通業界（小売－卸－メーカー）と小島グループ（小島プレスとその取引先、豊田商工会議所会員）2組の共同実証を行った。
- 金融機関と企業の間にはクロークと呼ばれる共通プラットフォーム（NTTデータ）を設置し、そこを経由してデータの授受を行う。
- 「仮想口座」と「EDI情報」を利用し、企業と取引を特定して売掛金のマッチング処理を行う。
- 企業とクロークの間は、新規のISO20022のPain.001（総合振込）とCamt.054（振込入金通知）のEDI情報欄（140桁）を利用。
- EDI情報欄にUN/EDIFACTのメッセージを取り込むことも標準化を見据えて検討中。（Remittance Information [送金情報：取引明細]、Remittance Advice [送金通知] など）
- 金融機関とクロークの間は、既存の全銀固定長の総合振込と振込入金通知のEDI情報欄（20桁）を利用。
- 小島グループは、本件以外にも「金融EDI連携」実証実験をいくつか行っている。

### 3. EDI/SCMの近未来

産業界国内外EDI/SCMの進化は続く

【国内】

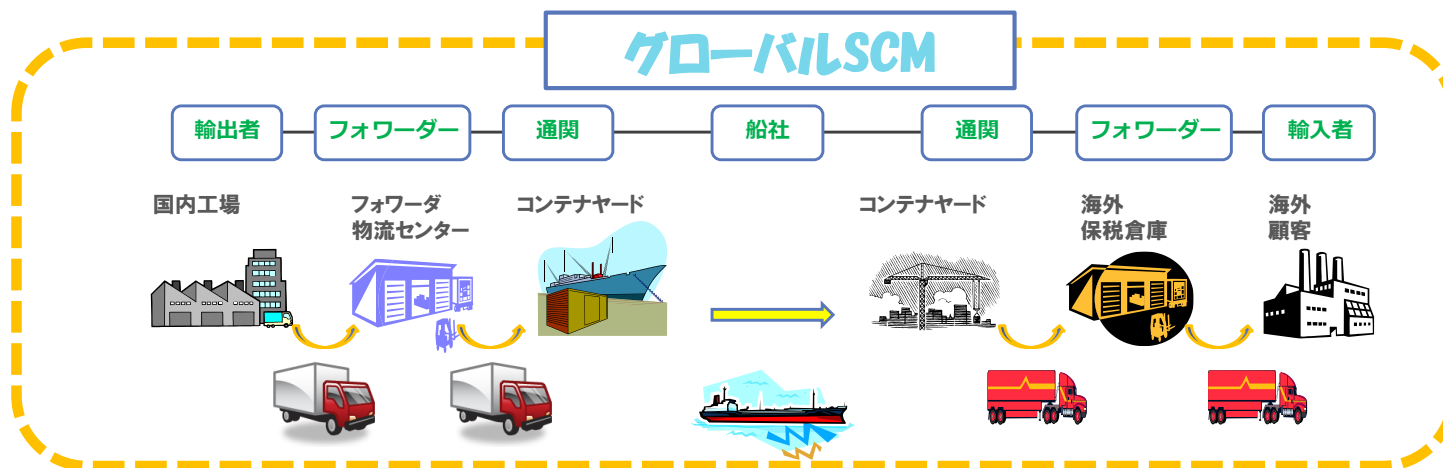
- これまで分断されていたSCMを連結または拡大する流れが最も大きい。 ⇒ 特に物流、Tier2・Tier3
- 販売計画、生産計画、調達計画など計画系の高精度化が重要視されている。 ⇒ 在庫の最適化を実現
- 販売→（計画）→生産→（計画）→調達と異なる組織間の利害調整が難しい。 ⇒ トップダウンのSCMが必須！



### 3. EDI/SCMの近未来

#### 【グローバル】

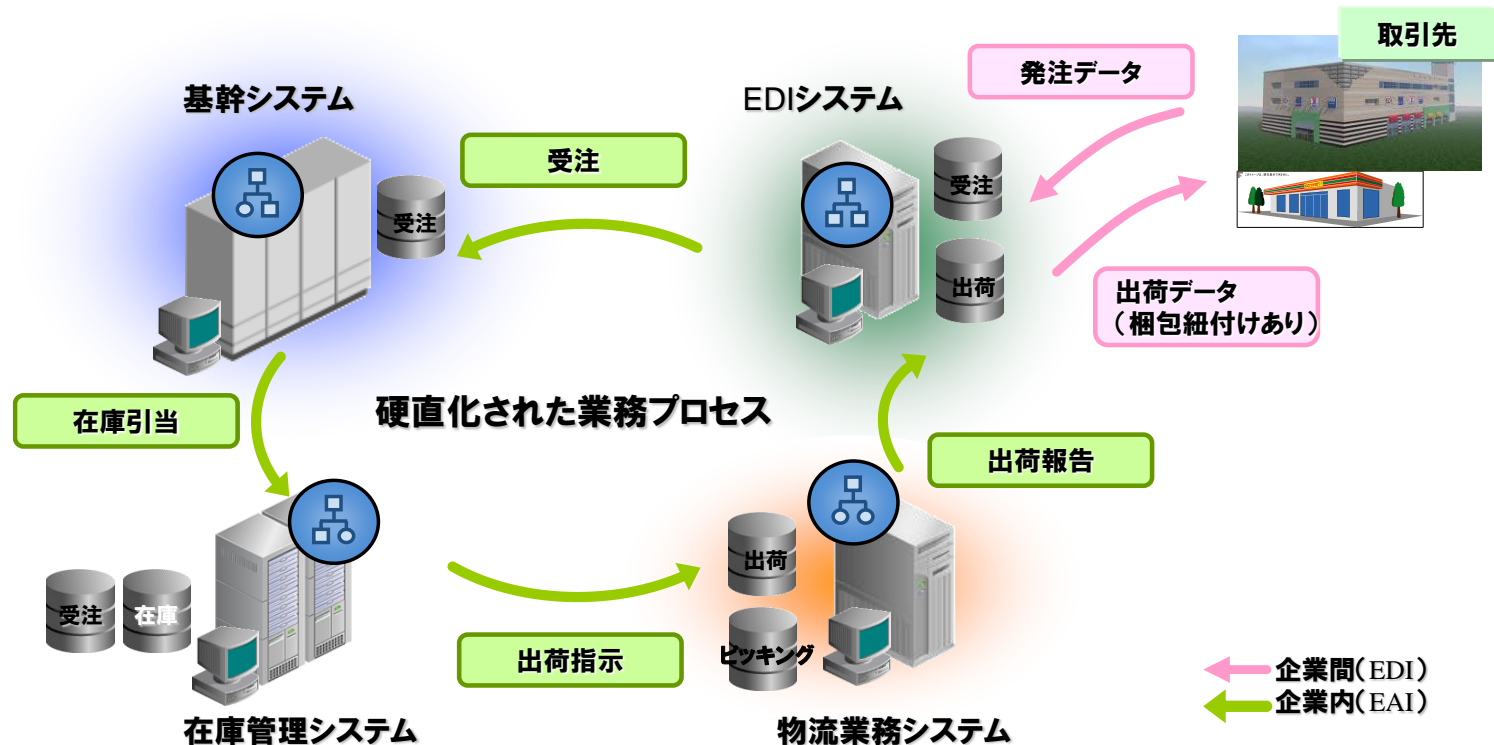
- アジアではIT基盤の構築から始まる。
- 日系企業も現時点では拠点ごとのシステム構築まで。現地と国内の情報感度・精度にばらつきがある。
- 構築・再構築にはグローバルロジスティクスの視点が求められている。
- 国ごとに異なる法制度、文化、慣習が大きな壁。
- グローバルITガバナンスを通して課題を克服。



# 4. 産業界が取り組む連携の基盤

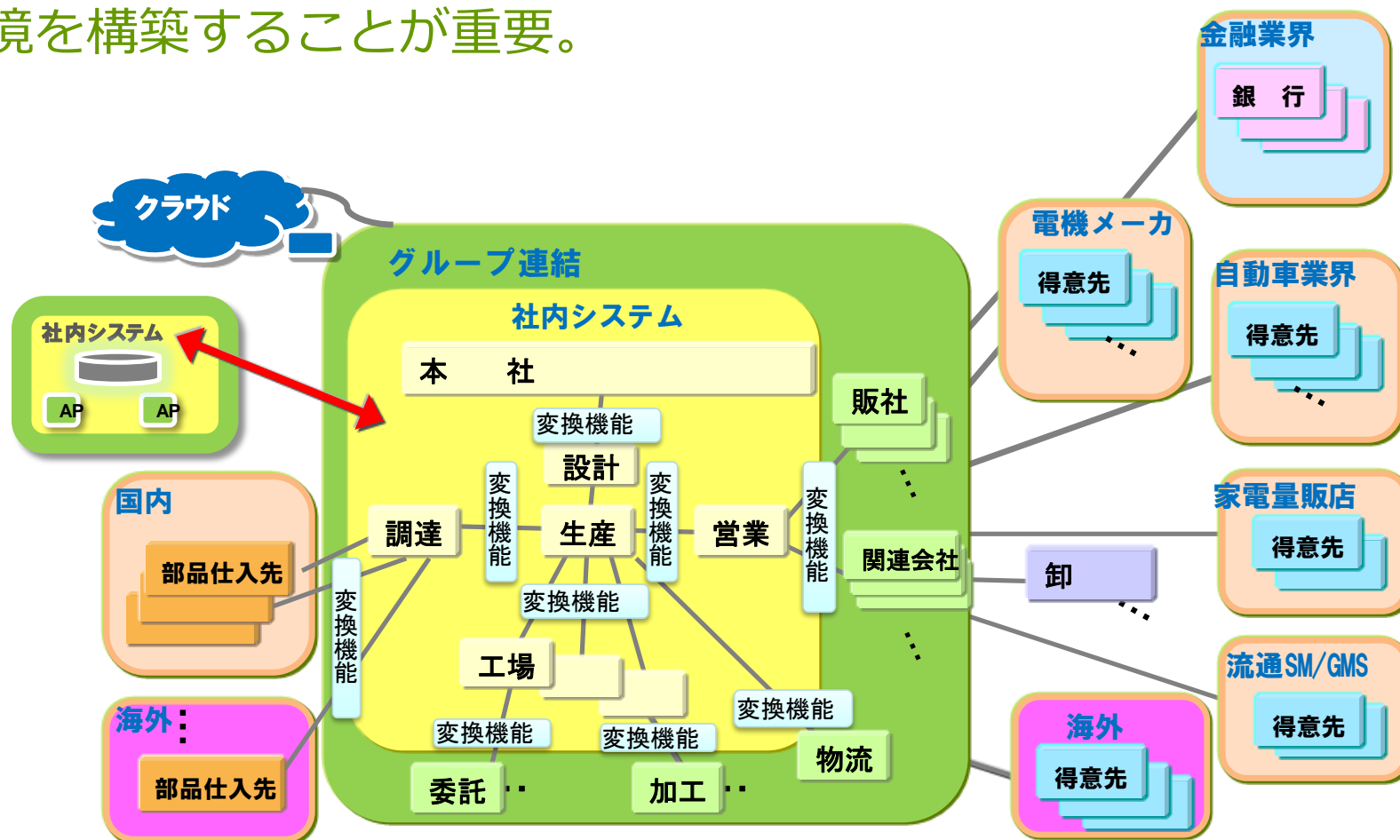
## (1) 企業間・企業内シームレスはあたりまえ

業務は、企業間・企業内を隔てることなく流れている。  
これを、EDIやEAIといったシステムで分けることはできない。



## 4. 産業界が取り組む連携の基盤

社内業務間は緊密な連携、企業間は柔軟な連携がとれ、クラウドを通して縦横無尽にデータが流れるような環境を構築することが重要。



# 4. 産業界が取り組む連携の基盤

## (2)これからのシステムはデータ連携基盤で統合

共通化できる機能は、データ連携基盤上で集約する。

業務が異なるサーバで稼働しようとも、運用上は1つのサーバで稼働しているがごとく管理できることが重要！



DAL

株式会社データ・アプリケーション

〒103-0013

東京都中央区日本橋人形町1-3-8

Phone 03-5640-8544

Facsimile 03-5640-8541

E-Mail fujino@dal.co.jp

EDI情報館 <http://www.ediblog.jp/> (藤野裕司のブログ)URL <http://www.dal.co.jp/>  
<http://www.AnyTran.jp/>